

待って、待って、新しい命のスタート

今、芸能界は結婚・出産ラッシュだそうです。お腹に赤ちゃんを授かると、お腹の中で赤ちゃんはどんなに大きくなっていくのでしょうか。

妊娠に気づく2か月目、胎児の体重は約4g、頭の高さからお尻まで約12mm、まだ見分けられないほどです。それなのに、もう体の主な器官の形が作られ始めています。3か月で頭と胴、手足の区別がついてきて人間らしい体つきになります。妊娠中期に入る5か月になると身長約25cm、体重約280g、骨や筋肉が発達して羊水の中で自由に体を動かすようになります。妊娠後期の8か月目になると主要な内臓器官の働きが成熟に近づき、体が一気に大きくなります。聴覚が完成し耳もしっかり聞こえます。

9か月になると肺の機能が完成し赤ちゃんらしい体つきになります。そして、身長が約50cm、体重が約3000g、10か月になると出産の時期を迎えます。

約10か月もの間に赤ちゃんはゆっくり、でも、確実に成長してきます。その間お母さんはつわりを体験したり、むくみや貧血を感じたり、動きにくさを感じたりします。ただ、その間は胎動に驚いたり、思わず話しかけたりと、お母さんだけがお腹の中の赤ちゃんの成長を感じているのです。お母さんは、待って、待って、やっとその日を迎えるのです。

こんにちは、赤ちゃん。やっと逢えた尊い命です。大切に育てていきたいですね。(A)

いよじよのしゃべり場

11月27日(水)

13:00～ きてね～☆

適応指導教室「はばたき」

～卒業生からのメッセージ～

長期の休みになると、毎年卒業生がはばたき教室を訪ねてくれます。今年も訪ねてくれ、自分の今の様子や思いを語ってくれました。その中で、卒業生がこんな話をしてくれました。

- ・人と話すのが楽になった。人って温かいなと思えるようになった。
- ・はばたき教室がなかったら高校の友達とも出会わなかったし、これからの自分の人生も大きく変わっていたと思うので、はばたき教室があってよかったと感謝している。
- ・はばたき教室では本当の自分でいられた。
- ・褒められたり叱られたりの繰り返しで我慢する力がついた。

など、子どもたちの生の声を聞く事ができました。

子どもたちと向き合っていると、見守るだけでなく心がぶつかることもあります。しかし、この教室で悩みながら生活していた子どもたちが成長している姿を見て嬉しく思いました。

様々な経験を通して自立した人に育ってくれることを強く願っています。

応援します！子育て家族！！

久しぶりに娘の家に泊めてもらった。

娘は夫婦共稼ぎで二児の母親。朝6時前に起きて仕事に行く準備を済ませ、子どもを起こす1時間が勝負の時間。洗濯と同時に朝食の準備。そして夕食の準備に取り掛かる。スマホ片手に手際よく夕食を作る。帰ると夕食の準備ができないそうだ。

7時になると子どもと夫を起こしに行く。しばらくして子ども（5歳）が起きてくる。続いて下の子（1歳半）もよたよたしながら起きてくる。起きるなり母親の足元にべったり。娘はすぐにその子をぎゅっと抱きしめ、「おはよう」と声をかけ、せわ

しなく朝食と夕食の準備を続ける。朝ごはんをテーブルの上に乗せ、子どもを座らせ食事を取らせる。その頃には夫も起きてきて、朝ごはんと一緒に食べる。私たちも一緒にご馳走になる。

ゆっくりと会話をする間もなく、子どもの着替え。下の子は着替えに時間がかかる。ワーワー泣いても着替えさせる。娘は今日早出らしく、大方の準備が出来上がると、さっと自宅を出て行く。後は夫が引き継ぎ、仕事に行くのと合わせて二人の子どもを別々の保育所へ預けに行く。毎日がその繰り返し。

子育て世代は大変。苦勞もあるけど楽しみもある。健康一番！頑張れ！！（K・H）

センター長のつぶやき

「ノーサイドの精神」

ラグビーW杯（ワールドカップ）日本開催。被災地での開催や日本チームの活躍に胸が躍る。予選リーグ1位通過なら「南アフリカ」と対戦予定。

歴史を紐解けば、日本がW杯で初勝利したのは1991年大会。1995年大会では、「ニュージーランド（オールブラックス）」に17-145と大敗を喫した。勝利に恵まれなかった日本は、前回の2015年大会対「南アフリカ」戦で「残り1分、ヘッドコーチのペナルティーゴールの指示（成功すれば同点）」ではなく、スクラムを選択し左隅にトライ。奇跡的な大逆転劇を演じた。そして一生で1回ともいえる日本開催。爆発的な盛り上がりとなっている。

「南アフリカ」も、1995年の自国開催W杯で、これまた奇跡的な初優勝を飾った。27年に及ぶ投獄から「人種融和」を勝ち取った、黒人初のマンデラ大統領が、白人のピナル主将に満面の笑みで祝福している姿が忘れられない。「ノーサイドの精神」そのものだと感じた。試合が終われば、相手チームとも抱き合って健闘を讃える。観客も入り乱れて応援し、試合が終われば互いを讃える。なんともすばらしいスポーツである。

この紙面が届く頃には、大勢が決まっている。すべてのチームの健闘にエールを送り、「感動をありがとう」と伝えたい。（DOI-G）

※ 先月号「あ！未奈子ちゃん」の未奈子ちゃんは、日野未奈子さんです。「伴走」を「伴奏」とした箇所があったこととお詫びします。

オレンジリボン運動

11月は

「児童虐待防止推進月間」です！

子どもたちが虐待を受けず、健やかに成長できる社会を目指しましょう。

最優秀標語作品

189（いちはやく）

ちいさな命に 待ったなし

伊予市子ども総合センター

伊予市尾崎3-1

伊予市総合保健福祉センター2階

☎989-6226